

看護学部で「出会う」 ■■■■■

看護学部 *School of Nursing*

■ 看護学科 入学定員 120人



看護学部3年
白木 ももこさん

学生 × 学部長 特別対談

デアイとミライ

この学部・学科を選んだ理由を教えてください。

白木:高校時代に野球部のマネージャーとして活動する中で、人のために行動する喜びを知り、周囲を見て先を考えて動く力を培いました。その経験は、患者さんやチームに寄り添いながら支える看護師の姿に重なると感じています。これを活かし、専門的な知識と技術を身につけ、人に寄り添い支えられる看護師を目指したいと思い、看護学部を志望しました。

山下:そういうことでしたら看護師という職はピッタリですね。看護は、あらゆる人、家族、地域社会を対象と

し、生涯を通して最期まで、その人らしく人生を全うできるようにその人のもつ力に働きかけながら支援することを目的としています。豊かな人間性を育み、Think globally act locally（眼差しは世界、行動は地元）という精神で何ができるかを自ら考え、幅広い知識を持った看護専門職者になれるように努力を続けてください。

現在行っている研究や学びについて具体的に教えてください。

白木:私は現在3年生で、基礎的な看護の知識や技術に加え、専門的な分野も学んでいます。授業やテスト勉強では、友達と分からないところを教え合いながら取り組み、互いに理解を深め合える工夫をしています。2年生の夏休み期間にあった1週間の臨地実習では、学校で繰り返し練習した清拭などの援助を実際

に患者さんに行いました。学びや実習を通して少しずつ成長を感じながら、将来につながる知識と技術、心構えを身につけていきたいと思います。

山下:とても充実しているようですね。本学部では、看護師や保健師になるための専門的な知識や技術の教育だけでなく、豊かな人間性や倫理観を育む教育、地域特性を学ぶ教育や国際性を培う



教育も重視したカリキュラムを準備しています。4年生になると、3年生までに学んだ講義や実習を通して疑問に感じたことや考えた課題について卒業研究に取り組み、看護の発展や専門職者として探究することの面白さを学ぶと思います。

健康で心ふれあう“安心社会”づくりを支える看護職の育成

少子高齢化社会の健康の護り手として人々の生活を支援するため、
確かな看護判断能力と実践能力を身に付け、他の専門職と協働して
健康上の課題に創造的に対応できる人材を育成することを目指します。



看護学部長
山下 早苗

将来のために努力していることについて教えてください。

白木: 私はボランティアサークルに所属しており、様々な年代の方と関わる経験を大切にしています。地域の高齢者や親子を対象にイベントを企画・運営したり、病院でのイベントにボランティアとして参加したりしています。こうした経験を通じて、年代によって求められる関わり方の違いや、相手に寄り添う姿勢の大切さを実感しました。人との関わりを通して得た学びを、将来の看護に活かしていきたいです。



山下: いい心掛けだと思います。一方で国際化も進んでいるので、他国の方との関わりも持ってみると良いかもしれません。本学部では、日本語・英語によ

る基本的なコミュニケーション能力を有し、ものごとを論理的に探究していくために高等学校の教育課程をバランスよく修得した上で、多様な価値観を尊重でき真摯な態度で「ひと」に向き合える人を求めています。特に看護職者として、地域社会に貢献したいという熱意ある人に入学してほしいですね。

看護学部への入学を目指す受験生に、アドバイスやメッセージをお願いします。

白木: 私は大学に入ることをゴールにして受験勉強に取り組んでいました。しかし今は、その先の将来も考えながら学び続けることが大切だと考えています。受験勉強はつらいこともありますが、活躍する自分の将来を想像しながら一つひとつの学びを大切に頑張ってください！

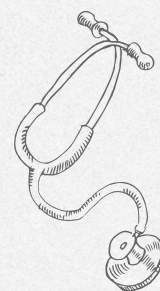
山下: 看護の基礎となる科目はクラシックな雰囲気のある草薙キャンパスで学び、看護の専門科目はモダンな雰囲気の小鹿キャンパスで学びます。小鹿キャンパスにある看護学部棟には、様々な看護活動の場に応じた看護技術を習得できるように5つの実習室を整備し、教育環境のソフト面も整えています。看護専門職者として基盤となる知識や人間性を育めるように、充実したカリキュラムと学習環境を整え、皆様のご入学を心よりお待ちしております。





01
学科紹介
Class

保健医療の現場で活躍できる
高度な専門知識を持った人材の育成を目指して



看護学科

科学的な探求心と豊かな人間性を備えた人材の育成を目指して

近年の少子高齢化に伴う社会の変化や保健医療技術の進歩により、高度な専門性をもつ看護職が期待されており、それに伴い全国の看護系大学設置数は急激に増加しています。静岡県立大学看護学部は、保健医療の分野でリーダーシップを発揮し、人々の健康ニーズに対応した看護ケアを創造的に創り出すことのできる看護職の育成を行っています。

▼ 卒業後の主な活躍フィールド

- 看護師** | 静岡県内をはじめ、東海・関東・関西地方の総合病院に勤務
- 保健師** | 保健所、市町村保健センター、企業の健康管理室等に勤務
- 進学** | 助産師、養護教諭一種、研究者を目指して、大学院に進学

附属施設

■ 看護実践教育研究センター

在宅での療養など多様なニーズに応える看護師の育成が重要な時代です。看護実践教育研究センターは、こうした社会的要請に応えるべく、医療機関・福祉機関・保健機関と地域との協働・連携ができる看護の実践家を育て、教育・研究・開発を促すことを目的として設立されました。現在、看護師特定行為研修の研修指定機関としての教育と地域の看護職者を対象とするリカレント教育、地域住民を対象とする健康教育などの事業に取り組んでいます。



荒井 孝子 センター長



多様な分野での活躍ができる 能力育成を考慮した授業展開

基礎看護技術Ⅱ

この科目では、病院を再現した実習室で、看護の基本的な技術を体験しながら学びます。体温・脈拍・血圧・呼吸の測定をはじめ、身体の清潔、食事、排泄など、日常生活行動の援助について学びます。また、感染予防のための正しい手洗いについても演習します。看護師だけでなく患者役も体験することで、思いやりのある看護技術を身につけていきます。



災害看護セミナー

2年生必修の「災害看護セミナー」では、災害の急性期から復興期における健康課題や必要な看護技術を学びます。県の災害対応や国内外の災害看護師の役割に関する講義に加え、地震災害を想定した避難所運営シミュレーションやトリアージ演習を実施。平常時からの備えを培い、災害時に地域や国内外で活躍できる力を育みます。

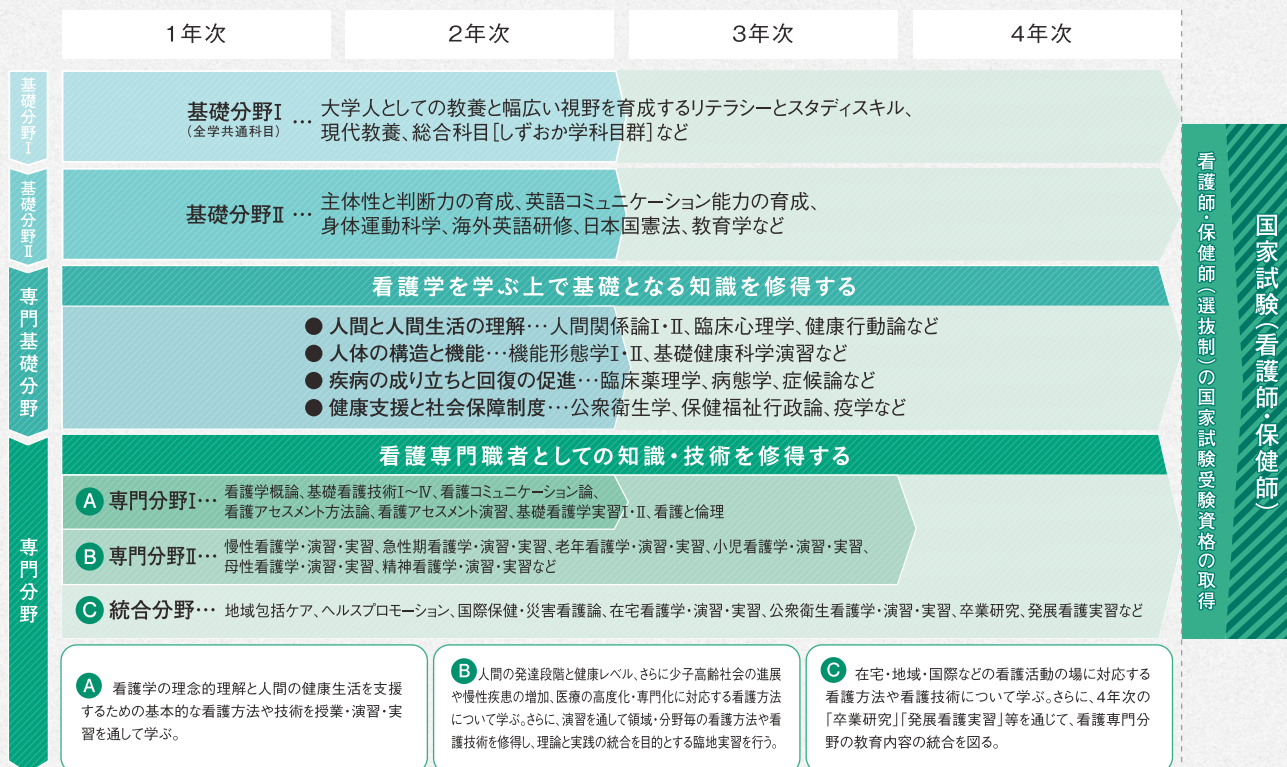


卒業研究

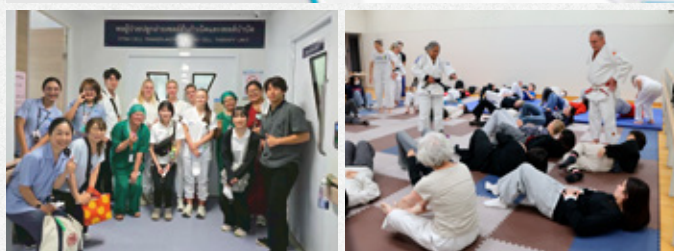
看護学部4年生は1年間をかけて卒業研究に取り組みます。学生は様々な専門分野から自分に関心のある領域を選択し、これまで培った学習や経験などを通して得た興味や疑問についてさらに学びを深めたいことをテーマに研究し、その結果を論文にまとめます。その成果は、毎年12月下旬に実施する卒業研究発表会にて発表します。



看護学部の概略チャート



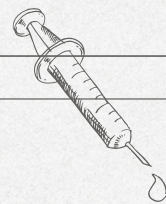
領域紹介



01 ピックアップ領域

看護学科

国際看護学領域



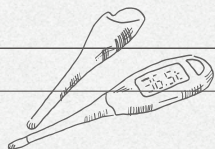
国際看護学領域では、世界保健機関（WHO）が掲げる「すべての人に健康を（Health for All）」という理念と、プライマリ・ヘルス・ケア（Primary Health Care: PHC）の枠組みを大切にしています。健康はすべての人の基本的人権であり、社会的・文化的・経済的背景にかかわらず、誰もが健康で生きることができる世界の実現をめざしています。本研究室では、国際的な看護教育・研究・実践を通して、地球規模の健康課題に取り組む人材を育成しています。開発途上国における地域保健活動、災害看護、グローバルヘルス教育、異文化間看護などをテーマに、各国の看護教育機関・医療機関との連携を推進しています。

学生は講義や実習を通じて、国際社会における看護の役割を学び、グローバルな視点から健康課題を考える力を養います。私たちは、静岡県立大学看護学部の持つビジョン「Think globally, act locally（地球規模で考え、地域で行動する）」を合言葉に、地域から世界へとつながる看護を実践しています。

02 ピックアップ領域

看護学科

公衆衛生看護学領域



公衆衛生看護学領域では、「すべての人に健康を」という理念のもと、あらゆる年代の、あらゆる健康レベルの方々が暮らす「地域」をより健康的なものにしていくために看護職はどのようなことができるのかを探究しています。講義では、どんな健康レベルにあっても、住み慣れたまちで自分らしく暮らしていける環境を実現するために必要となる地域アセスメントの視点や保健医療福祉システムの理解を深め、人々の健康行動を支援する技術を身につけていきます。多様な価値観や異文化の中で、なかなか声をあげることのできにくい人々の声を大切にできる倫理観や想像力も大切にしています。実習は、3年生前期に保健師課程に選抜された学生が4年生前期に履修します。実習施設は、保健所、保健センター、事業場、小・中学校など多岐にわたります。SNSやAIによって多くの健康情報を気軽に得ることのできる時代ですが、健康課題が生じる背景を明確にした上で適切な健康情報を誰にどのように伝えていけばよいか、グループで知恵を絞って考える実習を行います。卒業研究では、学生各自が興味関心をもったテーマで取り組んでいます。「すべての人に健康を」という理念を実現するために看護職は何ができるか、一緒に考え、学びましょう。



OB・OG紹介



静岡市

清水区役所健康支援課 勤務

松本 花奈さん

2024年3月卒業



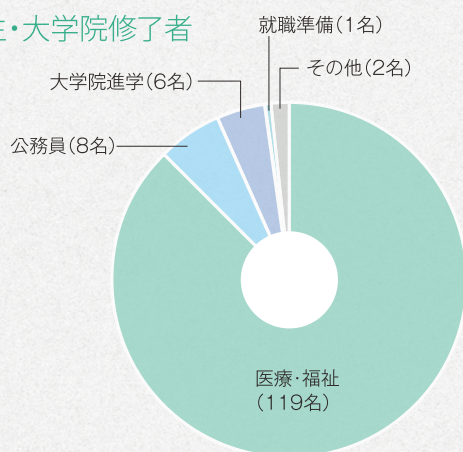
私は保健師として、あらゆる年代、生活・健康状態の方が地域で自分らしく生活が出来るように支援をしています。具体的には家庭訪問や電話での相談、幼児健診、地域での健康教育等を行っています。相手の出来ることを活かして寄り添いながら支援することは難しく、時には悩むこともありますが、助産師や福祉職等の方々と連携し住民の方と同じ目線で健康や生活を考えられることは保健師だからこそだと思います。

静岡県立大学では充実した設備のもと、看護学部では看護師・保健師、研究科に進学すれば助産師の資格取得を目指すことが出来ます。そして総合大学であることから様々な学部生と交流ができ、それらの体験の中で得た価値観や感じた人の温かさは今の私の支えになっています。相手の心と体の両方に寄り添えることは看護職の魅力です。仲間と一緒に様々なことへ挑戦し、静岡県立大学で看護職を目指してみませんか。

進路状況

2025年度卒業生

学部卒業生・大学院修了者



取得資格のピックアップ

▶ 取得できる資格一覧はP63参照

・看護師、保健師(選抜制)の
国家試験受験資格

卒業時には、看護師・保健師(選抜制)の国家試験受験資格が得られます。保健師の免許取得後に手続きを行うことにより第一種衛生管理者免許を、また在学中に指定の科目を履修し、保健師の免許を取得した場合には、手続きを行うことにより養護教諭二種免許を取得することができます。

主な就職先(過去3年)

静岡県立病院機構	聖隷沼津病院	富士市立中央病院	磐田市(保健師)
静岡県立静岡がんセンター	聖隷三方原病院	東京科学大学病院	富士市(保健師)
順天堂大学医学部附属静岡病院	聖隷横浜病院	虎の門病院	牧之原市(保健師)
浜松医科大学医学部附属病院	名古屋大学医学部附属病院	横浜市立大学附属	聖隷福祉事業団
浜松医療センター	磐田市立総合病院	市民総合医療センター	保健事業部(保健師)
静岡赤十字病院	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	横浜市立みなと赤十字病院	
藤枝市立総合病院	国立国際医療研究センター病院	静岡県(保健師)	
聖隷浜松病院	榛原総合病院	静岡市(保健師)	

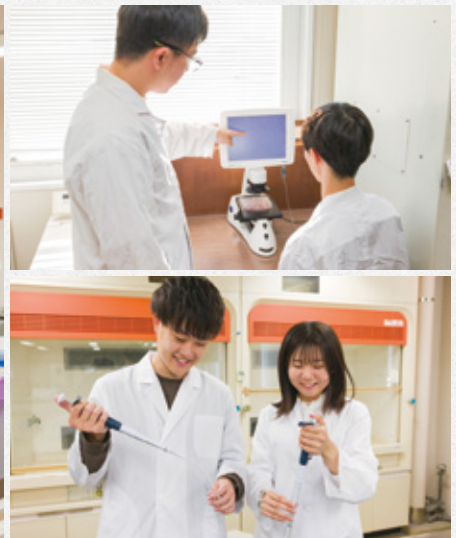
薬食生命科学総合学府

Graduate School of Integrated Pharmaceutical and Nutritional Sciences

健康長寿社会の実現に向けた最先端研究と人材の育成

日本は2007年に超高齢社会に突入しており(総人口に占める65歳以上人口の割合が29%を超過)、高齢者が健康で快適な生活を送るためにも、「薬食同源」・「食薬融合」研究の一層の社会貢献が望まれます。このような社会的要請に応えるべく、本学の薬学と食品栄養環境科学の両分野の大学院研究科は、2012年度から薬学研究院および食品栄養環境科学研究院と改称し、教育組織としては、これらを統合した世界で唯一の「大学院薬食生命科学総合学府」を誕生させました。

薬学研究院



薬科学専攻

本専攻は、博士前期・後期課程を通して「薬」に関する統合的な科学教育を行い、創薬に関わる専門知識と高度な研究能力を持つ研究者や技術者の育成を目指します。また附属研究施設である創薬探索センターでは新薬シーズ開発研究に力を入れ、学内外の公的機関や企業との共同研究を積極的に進めています。健康と病気とのメカニズムを物質レベルで解明し、薬の創製および人の健康に貢献する意欲があり、そのための努力を惜しまない国際的に活躍できる可能性のある学生を求めます。修了後は、製薬企業等の研究・開発・技術職、専門性を生かした行政従事者、教育・研究に携わる教員として活躍が期待されます。

薬学専攻

本専攻では、最先端の医療・臨床研究や基礎研究を実施できる高度な知識と技能、およびグローバルに活躍できる情報収集能力やコミュニケーション能力を身に付け、医療や臨床薬学関連分野の第一線において指導的立場で活躍できる薬剤師や薬学研究者の育成を目指します。静岡県立総合病院内に国内初の薬学教育・研究センターを開設し、大学院生に実践的な指導を行っています。また、がん、感染症等の専門薬剤師や治験コーディネーターの資格取得を支援しています。修了後は、製薬企業等の研究・開発職、病院薬剤師、医療薬学・臨床薬学領域の研究者として活躍が期待されます。

附属研究施設

■創薬探索センター

創薬探索のための研究環境を整備し、大学や公的機関、製薬企業との共同研究により、がんなどの有効な治療法の開発が求められている疾患を対象とした新しい医薬シーズの探索研究が進められています。また、実践的かつ高度な研究を通して、将来の新薬開発を担う研究者を養成しています。

■薬食研究推進センター

医薬品および機能性食品(医薬品等)に関する研究の更なる推進と成果の事業化のため、医薬品等に関する学術的基礎研究の推進および臨床研究への支援とともに、医薬品等に関する情報提供者並びに専門職および研究者の養成のための支援を行っています。

薬学研究院

食品栄養環境科学研究院

薬食生命科学専攻

2012年4月よりスタートした本専攻は、薬学領域の研究と食品栄養科学領域における研究を行うとともに、「薬食同源」「食薬融合」という共通認識のもと、薬学、栄養学、食品科学の知識体系について統合的に学ぶ「薬食生命科学」の研究を行っています。製薬企業や食品関連企業等で、医薬品や食品の研究・開発等に従事する研究者・技術者を育成するとともに、高い専門性を生かした行政従事者、高度専門職業人の指導者、薬学、栄養学、食品科学関係の教育研究に携わる研究教育者を養成し、社会で活躍できる人材を輩出します。

食品栄養環境科学研究院



食品栄養科学専攻

産業革命以降の人類の繁栄は、飽食文化と超高齢社会をもたらし、改めて「食」の在り方を問うに至っています。このような社会情勢を鑑み、本専攻は、食品生命科学大講座と栄養生命科学大講座から構成され、分子レベルからヒトを対象とした研究を通じ、食を介してヒトの健康維持に貢献し、国際的に活躍する高度専門職業人および研究者を育成します。

環境科学専攻

本専攻は、「地域・地球の環境を解析する」、「快適な環境を創る」、「生体の環境応答を究め生命を守る」ことを基本にした教育と研究を行っています。環境、食、健康に関わる問題解決に必要な専門技術や知識を習得し、幅広い視野で総合的に考える能力を養い、「より安全で快適な環境を目指し持続可能な社会の構築に資する人材」として、社会で国際的に活躍できる高度専門職業人・行政従事者・研究者を育成します。

附属研究施設

食品環境研究センター

食品環境研究センターでは、食品・栄養・環境科学の各分野の研究を通して、地域における健康福祉の向上と産業の活性化に資することを目的とし、「食と健康」、「環境と健康」に関連した研究および地域への教育・啓発活動等を行っています。

茶学総合研究センター

大学内の茶に関する研究情報を一元化するとともに、茶の栽培加工から機能性、販売、経営手法まで茶を総合的に科学します。県内の他大学や公設試験研究機関をはじめ行政・茶業界と連携して茶業振興に寄与しています。

国際関係学研究科 Graduate School of International Relations

国境を越えた広い視野と専門力を鍛え、国際社会や地域社会の課題を探究する

地球規模の諸関係の緊密化が進む今日の世界では、ある地域で起こった問題が世界中の人々の生活に影響を及ぼします。本研究科ではそのような状況を念頭に、国際社会や地域社会における諸課題の探究に応用することのできる高度な専門知識を学びたい方の意欲に応えます。国境を越えた研究の視座から国際的な俯瞰力と国際関係の専門性を養う国際関係学専攻、文化や言語の比較研究を通して複眼的な知性から多様性を捉える比較文化専攻を設置し、6つの研究分野を設けて広い専門分野をカバーするきめ細かい指導を行っています。



国際関係学専攻

■国際政治・開発研究分野

国際政治学、国際経済学、国際経営学、国際法学などの立場から、国際政治研究・開発研究の幅広いニーズに対応する科目群を設けています。修士論文作成に際しては東アジア、中東、アメリカ、ヨーロッパを軸とした地域研究の手法から研究指導を行うこともできます。

■国際社会・文化研究分野

社会学、人類学、社会心理学、コミュニケーション学などの立場から、グローバルな課題に取り組んでいる学際的な研究分野です。社会調査やフィールドワーク、計量分析などの手法を用いて、国境を越えた市民の行動を実証的に解明することを通じて、マイノリティと人権、多文化共生、ジェンダー、開発と環境などの地球社会の重要課題を研究しています。

比較文化専攻

■日本文化研究分野

日本の言語文学思想という比較文化の基礎となる領域を扱います。具体的には、日本語教育、古典語から現代語の分析、また古代、中世、近世から近代に至るさまざまな文学や思想の研究を行います。国語教員専修プログラムが設けられています。

■英米文化研究分野

言語理論、歴史、文学、社会学、コミュニケーション学などの研究領域について、英米を主とする諸地域間や過去と現在を比較する視点から研究を進めます。学術の探究に必要な英語技能を高め、方法論を修得する科目を配置し、英語教員専修プログラムも設けています。

■アジア文化研究分野

中国、朝鮮半島、東南アジア、南アジア、ロシアなど、広大なアジアの国や地域を、国際関係論、政治学、経済学、社会学、文化人類学、歴史学、哲学、宗教学など、様々な切り口から総合的に捉え、その実態と本質に迫ります。

■ヨーロッパ文化研究分野

ドイツ、フランス、スペインをはじめとするヨーロッパの各地域に密着し、文学、文化、歴史、思想、社会などを比較研究という大きな枠組みで取り上げます。さらに、人間科学を含め広い視野から文化を再考し、ヨーロッパ社会における持続と変化を追及します。

附属研究施設

■現代韓国朝鮮研究センター

広い視野からの朝鮮半島研究をモットーとして2003年に設置されました。本学アジア研究の蓄積を基礎に、研究（ワークショップ、社会調査、海外提携機関との共同研究等）、社会・地域貢献（政策提言、県民公開シンポジウム等）、教育（特別講義、日韓合同ゼミ等）の三本柱で活動しています。

■広域ヨーロッパ研究センター

西欧・南欧はもちろん、中東欧、バルカン、旧ソ連地域までを含む広域ヨーロッパを、地域的に広い文脈と時間的に長い視野で捉えた研究の拠点となることを目指し、個々の地域および地域間の政治文化や歴史的形成過程、EUの拡大と統合などについて学際的な研究を進めています。

■グローバル・スタディーズ研究センター

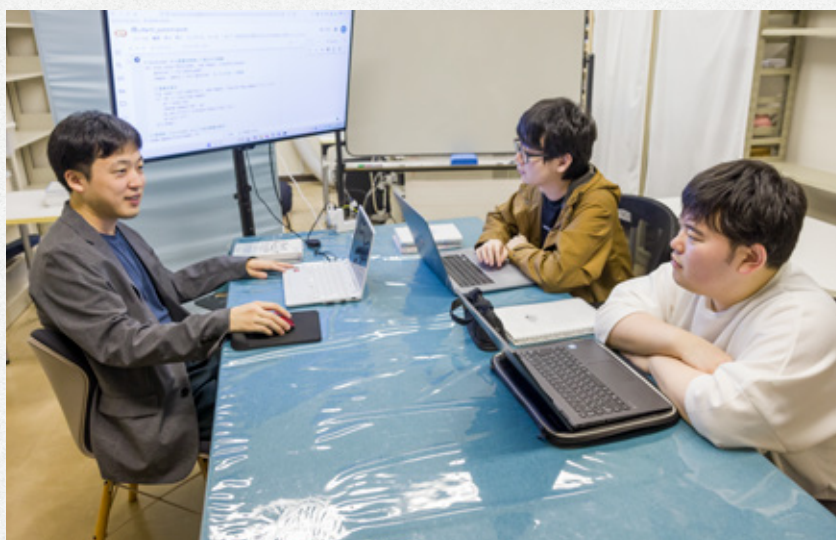
グローバルな構造や変動への視点と知識、個々の具体的な課題へのコミットメントの両面から、調査と研究を行い、グローバル化に関わる諸課題の解明と解決に寄与しようとする学際的な組織です。教育活動を通じて、地球市民的視野から変動する社会に能動的に参加する人材の養成を目指します。

経営情報イノベーション研究科

Graduate School of Management,
Informatics and Innovation

経営、公共政策、情報、観光を柱にイノベーションの担い手、高度な専門的人材の育成を目指す

環境が激しく変化する現在、新たなイノベーション的発想に基づいて、組織上の課題を発見し、解決することに貢献する意欲と能力を持った人材が強く求められています。さらにこうした傾向は、営利企業のみならず、行政や非営利組織などにおいても求められるようになってきています。本研究科では、このような要求に応える高度専門職業人の育成を目指すと共に、社会人に対しても、社会のあらゆる領域においてイノベーションを喚起できる能力を育成することを目的としています。



博士前期課程

本研究科博士前期課程においては、イノベーションを喚起しうる理論と実践を展開する担い手として、経営と公共政策、情報、そして観光に関する幅広くかつ深い学識を保有し、それを基礎とした研究能力を持つ新しいタイプの高度な専門的職業人を養成します。さらに昨今の激変し、プロフェッショナルが求められる時代の要請に対応した、地域社会の中でイノベーションを担う人材として、経営、公共政策、情報、観光の各分野における実践的な専門的職業人を育成します。

博士後期課程

本研究科博士後期課程においては、専門的職業人が活躍するためのフィールドやその仕組みをアーキテクトする(根幹からシステムを構築する)ことを志向する人材、および現場の第一線で活躍する人々をイノベーションに向けて指導する立場の人材を育成します。こうした人材は、時代に即した社会的要請に応えるために、経営と公共政策、情報、そして観光に関する領域におけるイノベーションの担い手、つまり高度な研究開発能力を有し、指導的立場において、制度的な枠組みを主導的にアーキテクトする中核的人材であり、我が国が直面する激変する社会環境下において強く求められる人材です。

附属研究施設

■地域経営研究センター

地域経営研究センターでは、大学院経営情報イノベーション研究科の知的資源を組織化・体系化し、地域経営をめぐる新たな理論やアプローチを探究するとともに、地域の諸問題の解決のための提言を行います。また、研究成果を活かして、社会人学習プログラムの開発と提供を行います。

■政策研究センター

政策研究センターは、本大学院の「公共政策」、「経営」、「データサイエンス」又は「観光」の各分野における政策に関する知見や、他の研究センターにおける研究と融合させつつ、政策に関する研究を行い、その成果を本大学院の内外に発信し、静岡県の発展に寄与することを目的としています。

■ICTイノベーション研究センター

経営・総合政策・情報を連携・融合させた学際的研究を推進するため、情報通信技術(ICT:Information and Communication Technology)分野におけるイノベティブな研究および社会のイノベーションの基盤となるICT技術の研究に取り組み、研究成果の社会展開を通じて静岡県をはじめとした地域の発展に貢献します。

■ツーリズム研究センター

静岡県では観光を基幹産業の1つとして位置づけています。ツーリズム研究センターでは、静岡県観光に関する調査研究を通じて、地域社会への情報発信を図り、静岡県観光の振興並びに地域再生に貢献できるよう努めています。

看護学研究科

Graduate School of Nursing

看護学の魅力あふれる知の探求と高度実践家育成の場

大学院での学びを活かして、将来地域で、日本で、そして世界で活躍できる人材の育成を目指します。



博士前期課程

看護は人々の健康を支えるためにさまざまな役割を果たしています。本研究科博士前期課程では、総合大学の特性を生かして生命関連領域の諸科学と連携しながら、専門的知識や実践力を磨き、看護職の多様な役割をさらに発展させ、教育・研究を積極的に推進できる人材、広くニーズに対応できる高度看護実践家の育成を目指しています。専門領域は3つで構成され、さらに助産師国家試験受験資格取得のための助産学課程を設置しています。

■ 基盤看護学領域

看護管理学分野

患者中心となる看護の質の向上について探求します。また質の高い看護を提供するための看護管理のあり方を追求します。

看護技術学分野

エビデンスに基づいた看護を実践していくために、既存の看護技術の評価や新たな看護技術の開発を目指します。

■ 実践看護学領域

成人看護学分野

臨床の看護現象に焦点をあて、治療を受けながら闘病し療養する人々の健康問題(慢性・急性期・がん看護学)の特性や実態把握、介入法を用いた知見の発見など、臨床への応用を目指した研究に取り組みます。

小児看護学分野

日頃の小児看護実践を振り返り、理論を用いて現象の理解を深めます。さらに、子どもの発達アセスメント・倫理的課題についても理解を深め、小児看護の専門性を追求します。また、子どもや家族、看護師を対象にした小児看護の研究に取り組みます。

助産学分野

ウィメンズヘルスケアや助産ケアの対象である女性・家族・子どもを理解するための理論、エビデンスに基づいたケアを実践するための考え方を学び、助産学に関連するテーマで修士論文に取り組みます。既に助産師として臨床で経験を積んだ方、助産に関連するテーマで研究をしたい方を対象とします。

■ 広域看護学領域

在宅看護学分野

地域や在宅で生活する人々の健康レベルを高め、人々の社会生活を豊かにすることをめざす地域・在宅看護活動の考え方や展開方法を追究します。

精神保健看護学分野

子どもから高齢者の全ての人の精神の健康を促進するための知識、技術を深めます。

公衆衛生看護学分野

地域で生活する人々の健康を保持増進し、QOLを高めるための公衆衛生看護活動の課題解決やあり方を探究します。

国際看護学分野

国際医療の推進に寄与する高度な看護実践能力を探究し、優れた外国語能力を駆使し、異文化に対する理解を深めた看護の研究に取り組みます。

■ 助産学課程(助産師国家試験受験資格取得)

助産師は、女性、そしてその家族の健康を守る専門職として、高度な知識と技術、専門的な判断力、女性や家族に常に寄り添い倫理的に対応できる能力が求められます。本学では、助産師としての専門的な能力を身に付け、多様なニーズに応えることや、新しい助産ケアの開発につながる研究的思考を持つこと、そして助産学の発展と教育に貢献できる助産師の育成を目指します。

博士後期課程

○専門力と開発力を高める

2020年4月より博士後期課程を新設しました。本課程では、第1に教育力と研究力を発揮して新たな看護学の知識体系の構築・開発に取り組み、専門的知識と指導力に基づいた質の高い教育・研究を実践できる看護学研究者・教育者、第2に有効な看護ケアの開発や制度的な枠組みやシステムの構築を行い、病院と地域との協働・連携を円滑に運営できる地域包括医療における看護指導者の育成を目指します。

豊かな人間性と実践的な専門知識と技術をあわせ持った
保健・医療・福祉・教育系専門職者の育成

〒422-8021 静岡県静岡市駿河区小鹿2-2-1
TEL.054-202-2600 (代表) 054-202-2610 (入試担当)
<https://oshika.u-shizuoka-ken.ac.jp/>

- 短期大学部専用のパンフレットがあります。
ご希望の方は上記にお問い合わせください。
- 短期大学部(小鹿キャンパス)へのアクセスは
68ページをご覧ください。



学科の特色

歯科衛生学科

人びとの生涯にわたる健康づくりを支援する歯科衛生士を育成します

歯科衛生学科では、人びとの健康づくりに貢献できる人間性豊かな歯科衛生士を育成します。学内では歯科衛生に関する専門知識や技術の教育はもとより、他学科等の教員による専門性を生かした教育も行います。学外では、歯科医院をはじめとして、病院、幼稚園・小学校、高齢者施設、保健福祉センター、高齢者の通いの場などでの多彩な臨地実習により、実践力の強化を図ります。また、チューターやクラス担任等による、複層的な学生生活および国家資格取得の支援を行います。



社会福祉学科 (社会福祉専攻)

福祉・保育の感性豊かな専門家を育成します

社会福祉専攻では、社会福祉や保育に関する理論と実践、子どもから高齢者までの様々なライフステージに必要な援助のあり方と方法を専門的に学び、職業倫理と援助技術をもった対人援助者の育成を目指します。本専攻で取得できる資格は、保育士資格、社会福祉士国家試験受験資格(要実務経験)および社会福祉主事任用資格の3つです。これらの資格をあわせ持つユニークな専門職を育成するために、学外では保育所やその他の社会福祉施設、相談援助機関における実習を数多く行っています。



社会福祉学科 (介護福祉専攻)

介護福祉のリーダーとして活躍できる人材を育成します

介護福祉専攻では、高齢者や障害のある人びとが家庭や地域、施設において自立した生活ができるように援助を行い、さらに介護に関する相談援助ができる介護福祉士の育成を目指しています。介護福祉士は総合的な専門職であり、そのために必要な知識や技術を幅広く学びます。学内での講義・演習に加えて、各種施設において450時間の実習を行い、実践力を高めていくために多くの体験機会が用意されています。本専攻で取得できる資格は、介護福祉士国家試験受験資格と社会福祉主事任用資格の2つです。



こども学科

こどもの健やかな育ちを保障する人間性豊かな保育者を育成します

こども学科では、こどもの健やかな育ちを保障するための高度な専門知識と実践能力、教養および豊かな人間性を持つ保育者(幼稚園教諭・保育士・保育教諭)の育成を目指します。取得できる免許・資格は、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格、社会福祉主事任用資格の3つです。これらの免許・資格を有し、自ら学び続けることのできる保育者を育成するために、幼稚園、保育所やその他の児童福祉施設における多様な学外実習の機会を提供します。また、学内では、チューター、ゼミ教員等が協力しながら学業や学生生活の支援を行います。



MESSAGE

短期大学部長 吉田 直樹



短期大学部は、保健・医療・福祉・教育の専門家を育てています。教員から、きめ細やかな丁寧な指導が受けられることが特徴です。学外の実習も充実しています。学生生活や就職に関するサポートも充実しています。クラブ&サークル活動では、広いグラウンドや体育館も使用できます。小鹿キャンパスからは、天気の良い日には、富士山が見えます。同じ目標を持った仲間との楽しい学生生活を、本学で送ってみませんか。